巻　頭　言

別府大学日本語教育研究センター長

松　田　美　香

別府大学日本語教育研究センターが2009年４月に設立されてから、今年度で６年になりました。その間、留学生の日本語教育がどうあるべきかを追求し、いくつかの改革を行ってきました。

今年度は新たに「日本語能力試験Ｎ１保持者数増」を目指し、学内の学生支援GPを得て、ビジネス日本語科目（Ｂ群）を受講している留学生には、一定の手続きをすれば受験料を返還する取り組みを行いました。その結果、ビジネス科目Ｂ群の受講者数が増加し、Ｎ１受験者数とＮ１合格者数の増加という好ましい結果を得ました。

さて、研究のための『別府大学日本語教育研究』も、本号で第５号となります。今年度３年目となる、学内研究GP「語学教育におけるプレイスメントテストの効果的な活用と教育効果の測定に関する共同研究」では、５月の成果発表会や今年２月に本学で開催した広島大学大学院准教授の渡部倫子先生の講演会「日本語評価のこれから」など、昨年度に引き続き研究活動も活発になってきました。今回も本紀要には学外の２名の先生方からの御寄稿と大学院留学生の投稿が掲載されることとなり、研究の面でもますます特色が打ち出せるようになりました。これも、関係各位の御協力の賜物と心より感謝いたします。

昨年も書きましたが、残念ながら近隣諸国との関係は予断を許さない状況が続いています。本学での日本語教育が、それらの国と日本との「懸け橋」につながっていくようにと願ってやみません。学習者の個性や可能性を尊重してその成長に寄与するものでありつづけること、本センターは、そのための努力を惜しまず、邁進していくことを誓います。

最後になりましたが、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申しあげます。

平成27年３月30日